

『令和4年度防衛省の主要事業』

(放送時期：2022年6月)

M C : ○ リスナーの皆さんこんにちは。今月の「防衛問答 近中でござる」は、本年度の防衛省の主要な事業、すなわち陸海空3自衛隊を含め、何に力を入れて取り組もうとしているかについてのお話を伺っていきたいと思います。

○ 今回は、近畿中部防衛局のA防衛補佐官にお越し頂いております。どんなお話を聞くことができるのか楽しみです。それでは、A防衛補佐官、よろしくをお願いします。

A : ○ ラジオをお聴きの皆さん、こんにちは。防衛補佐官のAです。本日はよろしくをお願いします。

M C : ○ まず、本題に入る前にA防衛補佐官のことについてお聞きしたいのですが、着ている制服からすると陸上自衛官ですね。

A : ○ はい。そのとおりです。

M C : ○ そしてお会いしてすぐに気になったのですが、制服の左胸に付いている金色と銀色のバッジは何ですか？

A : ○ これは、徽章と言いまして落下傘で降下する教育とレンジャー教育を終了した隊員であることを示すものです。私が防衛大学校卒業後幹部候補生学校から初めて自衛隊勤務した部隊が千葉県船橋市にあります陸上自衛隊の第1空挺団という部隊でした。この部隊に所属するために必須の教育で、その時この資格を取りました。

M C : ○ では、A防衛補佐官は落下傘で降りることができるのですか。怖くないですか？

A : ○ 私はすごく怖いですが、20年近く勤務しましたがなれることはなかったですね。逆に年を重ねるごとに高所恐怖症になっていったような気がします。(笑)

M C : ○ どれくらいの高さから降りるのですか？

A : ○ 落下傘には2種類ありまして、スポーツパラシュートのような高高度から降りるものと諸外国でも同様に軍用として使用する低高度から降りるものがあります。通常は低高度から多くの隊員が降下するのですが、その場合よく言われるのが「新幹線ぐらいのスピードで航空機から飛び出し、およそ東京タワーの高さから飛び降りる」感じですよ。

M C : ○ やっぱそれは、想像するだけで怖いですね。地面につく時はどのような感じですか？やっぱふんわり降りる感じですか？

A : ○ いいえ、かなりの衝撃がありますね。先ほど言ったスポーツパラシュートのような高高度から降りる場合は、そのような着地もできるのですが、低高度で降りる落下傘は、敵からの攻撃を防ぐため、できるだけ空中にいる時間は短くする必要があります。だから、ケガをしない程度に早いスピードで降ります。感じとしては人が2mぐらいの高さから飛び降りた時に感じる衝撃ですね。

M C : ○ 2mの高さから飛び降りたらケガしちゃうそうですが？

- A : ○ そうですね。普通に飛び降りたら危険ですね。更にかなり重量の装備品も持っていたり、着地する地面の状態も凸凹であったり、岩みたいな硬い地面に降りる場合が多いですから。そのために落下傘で降下するために特別な教育があって、落下傘の装着や航空機からの飛び出し方そして着地の仕方等約1か月間をかけて教育を受けます。
- M C : ○ だから資格が必要なのですね。貴重な話をありがとうございます。それでは、本題の防衛省の今年の取り組みについて教えてください。
- A : ○ はい、わかりました。まず、今年の防衛省の主要事業がどのように決まっていくかを簡単にお話しします。「防衛計画の大綱」って聞いたことがあると思いますが、これは概ね10年程度の期間を念頭に防衛力のあり方と保有すべき防衛力の水準を規定しています。これを基にして「中期防衛力整備計画」というものが策定されるのですが、これは5年間の経費の総額限度と主要装備品の整備数量を明示したものです。この中期的な計画に基づいて年度ごとに情勢を踏まえて主要事業を決めることとなります。そして、現在の「中期防衛力整備計画」は平成30年度に策定されましたので今年が4年目にあたります。ですから、年度の事業は年度ごと単体ではなく一昨年、昨年と繋がって行われているものなんです。
- M C : ○ 昨年も令和3年度の主要事業についてお聞きしましたが、その内容と繋がっているってことですね。
- A : ○ はい。そのとおりです。ですからコンセプトは大きく変わりませんが事業については新規のものもあれば更に充実・進化させるものがあります。これからはそのコンセプトの特徴と主要な事業についてお話しします。
- M C : ○ 少し質問ですが、先ほど年度の主要事業は情勢を踏まえて決定すると言っていましたが、「中期防衛力整備計画」が策定された平成30年度の情勢と現在では変化しているように思うのですが、どうですか。
- A : ○ 鋭い質問です。安全保障にかかわらず様々な分野で時代・技術の変化が目覚ましいですよ。では、安全保障の分野ではどうかと言いますと、平成30年当時の情勢は「周辺各国が軍事力を強化し、我が国周辺で軍事活動を急速に活性化させるなど、我が国を取り巻く安全保障環境がこれまでにない速度で厳しさと不確実性が増している」との認識でした。その要素はあまり変化していませんがその厳しさと不確実性へのスピードと大きさがさらにアップしていると言えます。
- ですから今年度の特徴の1つとして「防衛力強化加速パッケージ」と位置づけ、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算を一体として編成し防衛力を大幅に強化していく点です。
- 2つ目の特徴としてこれまで重視してきた宇宙・サイバー・電磁波といった新領域における能力を合わせた多次元統合防衛力の構築と防衛分野での技術的優越の確保のため、ゲームチェンジャーとなる技術等の研究開発や防衛産業基盤の強化です。

- M C : ○ 宇宙・サイバー・電磁波といった能力を含んだ多次元統合防衛力とかゲームチェンジャーとなり得る最先端技術の研究開発を重視していることは、昨年もうかがいました。
- A : ○ この特徴は継続して進化・強化していく事項です。そして質の高い自衛隊員の確保や処遇改善等を通じた人的基盤の強化及び日米同盟を含む安全保障協力を強化していくことも継続的に実施していくことになります。
- M C : ○ 令和4年度の事業は、そのような特徴があるんですね。では、具体的にどのようなことを行っていくのか教えてください。
- A : ○ はい。陸・海・空自衛隊に関するトピックは、後程話しますので今からは総合的に行う事業をお話しします。つまり「研究開発」と「宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力の獲得・強化」についてです。
- M C : ○ では研究開発については具体的にどのように行っていくのでしょうか。
- A : ○ はい。まず、「ゲームチェンジャーとなり得る最先端技術に関する取り組み」として極超音速誘導弾を含む将来誘導弾の性能向上に関する研究や反対に極超音速誘導弾等の対処のため、弾丸を高初速で連射可能な将来レールガンの研究又人工知能（AI）技術を活用した水中無人機（UUV）やAIの適用を含めた戦闘支援無人機の研究などを行います。
- M C : ○ 極超音速ミサイルは、ロシアによるウクライナ侵攻でも使用したことが話題になりましたよね。どのような点が今までと違うのですか？
- A : ○ 極超音速ミサイルがこれまでの弾道ミサイルと違う点は、速さと飛び方が違くとされています。速度はマッハ5以上の高速で、低い高度で上下左右不規則に動くとされていることです。ですから、現有の兵器では探知や迎撃が難しいことが話題になりました。
- M C : ○ 兵器は様々な種類があってそして日進月歩がすごいですね。やはりこれに備えるには、常に先んじて研究開発することが重要なことがわかりますね。他の研究開発は何ですか？
- A : ○ はい。「宇宙領域における能力の強化」として衛星コンステレーションと呼ばれる小型衛星群で複数の移動目標を自動かつ高頻度に位置を予測し追尾などを可能にするAI技術の研究や「スタンド・オフ防衛能力の強化」として地上から艦艇を目標に射撃する12式地对艦誘導弾自体の開発に合わせて艦艇や航空機から発射できるものへの開発があります。そして「統合ミサイル防空能力の強化」として同時多目標対処能力を向上し、コスト低減を図った空自の基地防空用地対空誘導弾（改）と機動展開能力に優れ、低空目標への対処能力の向上を図った陸自の新近距離地对空誘導弾のファミリー化により効率的に開発するなどの研究開発を行っていきます。
- M C : ○ ファミリー化というのは初めてお聞きしましたがどのような意味ですか。
- A : ○ はい。ファミリー化とは、装備品について基本的な構成部品を共通化させつつ、機能、性能等にバリエーションを持たせることで異なる運用要求に応えるようにすることを言います。装備品のファミリー化により、補給整備性の向

上、ライフサイクルコストの低減、研究開発の効率化が期待されます。

- M C : ○ 限られた予算を効果的に使うために民間と同様にコスト低減や効率化などにも配慮されているんですね。
- A : ○ はい。有限の資源ですので今年度の事業でも既存の予算・人員の配分に固執することなく、資源を柔軟かつ重点的に配分し、効果的に防衛力を強化すること。また、格段に厳しさを増す財政事情と国民生活にかかわる他の予算の重要性等を勘案し、我が国の他の諸施策との調和を図りつつ、調達の効率化にかかわる各種取り組み等を通じて、一層の効率化・合理化を徹底することもコンセプトに含まれています。
- M C : ○ 防衛力整備だから何でもかんでもひつよ——というイメージを実際のところ持っていたのですが、そうでもないんですね。国民生活のことまで配慮して考えられているとは失礼しました。
- 次に宇宙・サイバー・電磁波領域のお話を聞く前に少し休憩。自衛隊音楽隊の演奏をお聴き下さい。曲名は「ロッキーのテーマ」です。

～演奏～

- M C : ○ とっても素敵な演奏でしたね。それでは、引き続き、宇宙・サイバー・電磁波の領域における能力の獲得・強化について具体的な事業を教えてください。
- A : ○ はい。令和2年5月に発足して話題になった宇宙作戦隊がありますが、さらに宇宙領域での能力を強化するため、今年3月に宇宙作戦群と規模を拡大した部隊を発足しました。令和4年度はその本部・管理機能の強化や作戦隊の増設を計画しています。また、SSA（宇宙状況監視）を強化する装備品としてレーザー測距装置を取得します。これはレーザーにより目標との距離を精密に測定する機材になります。
- 次にサイバー分野では、昨年自衛隊サイバー防衛隊の発足で体制を強化しましたが、今年は人材育成や訓練を重視して国際訓練等に参加をします。
- 最後に電磁波領域に関して、陸自の電子戦部隊を新編したり、航空自衛隊と海上自衛隊が保有する電波情報収集機の改修等により平素から電波収集・分析を強化します。これにより、有事においては相手の電波利用の無力化を図って各種戦闘を有利に進めることになります。
- M C : ○ この宇宙・サイバー・電磁波の領域は、日本以上に諸外国の方が進んでいるイメージがありますがどうなのでしょう？
- A : ○ その通りです。そのためにも加速度的に態勢を整備する必要がありますので、まず、人材育成の観点から米国コロラド州の米宇宙軍基地で実施する「Space 100」課程等に要員を派遣し宇宙全般知識を習得したり、同じく米国の電子線運用幕僚課程に航空自衛隊の隊員を派遣して、電子戦にかかわる運用知識を習得します。
- また、国際的な訓練に参加してその能力を強化する点においては、宇宙分野

における多国間机上演習等に参加したり、北大西洋条約機構（NATO）サイバー防衛協力センター主催の対抗形式の多国間サイバー防衛演習「ロックド・シールズ」に参加する等によりその能力を強化します。

M C : ○ 人材育成や訓練参加により最新技術を取り入れ、吸収していき有事に備えるということなのですね。

A : ○ 新領域の分野は、他国間との連携も重要な要素ですので、そういったところでも他国との交流や訓練への参加は防衛力の強化に繋がります。

M C : ○ 最後は人が重要なのですね。

A : ○ そのとおりです。次にその人の話「人的基盤の強化」についてお話しします。特に募集業務の充実・強化です。防衛省・自衛隊が各種任務を適切に遂行するためには、質の高い人材を確保することが必要不可欠ですが、社会の少子化・高学歴化の進展などによって自衛官の採用環境は厳しい状況にあります。そのため更に防衛省・自衛隊を知っていただくためSNS等の広報用動画の作成やWEBセミナーを行います。

M C : ○ そういえば、最近ユーチューブで自衛隊の楽しい動画が増えているらしいですね。

A : ○ そうです。今まで関心のない方々により多く自衛隊を知ってもらうために情報発信しています。また、少しでも興味のある方は、陸・海・空自衛隊の駐屯地や基地における体験型で参加できるイベント等も年間を通じて実施していますのでお気軽に自衛隊和歌山地方協力本部又はお近くの和歌山募集事務所、有田募集事務所そして御坊地域事務所にお問い合わせください。

M C : ○ 体験型とはどのようなものですか？

A : ○ 例えば自衛隊の装備品を実際に触って取り扱ってみたり、車両に搭乗したり、駐屯地や基地内の生活や勤務をする場所を研修したりそれに今働いている自衛官からいろんな話や質問に答えてもらえたりとかいろいろな企画のものがああります。ここで質問です。MCさん、今自衛隊入隊の採用上限年齢をご存じですか？

M C : ○ 何歳まで入隊できるかということですか？

A : ○ その通りです。

M C : ○ そういえば、社会経験を積んだ人や幅広い層から多様な人材を採用するために引き上げられたと聞きましたが、年齢までは覚えていません。

A : ○ 自衛官になるには中学校から陸上自衛隊高等工科学校に入学する方法や高校等から海上・航空自衛隊の航空学生としての入隊する方法、防衛大学校・防衛医科大学校及び看護学科の学生として入学する方法そして一般大学から幹部候補生として入隊する方法等がありますが、ここでは一般的な高校等から一般曹候補生と自衛官候補生として入隊する場合ですが、2018年までは、「27歳未満」だったのが「33歳未満」と6歳も引き上げられました。

M C : ○ では、先ほどからお聞きしている新しい分野とかも含めて、いろんな能力を持った人たちが入隊して活躍できる機会が増えているのですね。そ一言え

ば、入隊した後の隊員さんの活躍ですが、私が女性なので関心も強いんですが、女性自衛官の活躍がすごいですね。

A : ○ そのとおりです。更に活躍を推進するために生活・教育・勤務環境の基盤整備を行ったり、家庭生活との両立のために、庁内託児所の整備や緊急登庁支援つまり勤務する職場で子供を一時的に預かる施策の整備を行っていきます。

M C : ○ 女性自衛官も戦闘機のパイロットや潜水艦の乗員そして第一空挺団、水陸機動団の隊員など第一線の部隊で活躍される女性が増えているとお聞きしました。同性として頼もしい限りです。

○ 今まで本年度の防衛省の総合的な事業についてお話頂きましたが、次は、陸・海・空の自衛隊編ですね。

A : ○ はい。それでは、陸・海・空のそれぞれ主要な事業について説明します。まず、陸上自衛隊において「変革の加速、実力の進化、信頼の増進を合言葉にイノベーションを進める」としています。そこで、主要事業の一つ目として、昨年30年ぶりに大規模な「陸上自衛隊演習」を行いました。その教訓から機動展開能力の強化に重点を置き、これまで欠落していた「海上機動」の整備として輸送船舶2隻を建造し海上自衛隊と協同運用する計画です。2つ目は、現在九州・南西地域には与那国島、宮古島、沖縄本島と奄美大島に陸自部隊を配置し、警戒監視等を行っていますが、新たに石垣島に配置します。3つ目はイノベーションとして陸自のすべてのシステム・ネットワークを一元管理、防護できる機能に改善し、システムは各種情報を一元的に処置・共有できるクローズ系クラウドシステムに換装します。

○ 続いて、航空自衛隊と海上自衛隊について説明するのですが、その前に領海・領空についてお話をします。

M C : ○ 領海と領空ですか。

A : ○ はい。実は正しく知っておくことで、日本に対する外国の脅威や海上自衛隊と航空自衛隊の活動も理解しやすくなると思います。

M C : ○ そー言えば、知っているようで何となくって感じですよ。よろしく願いします。

A : ○ はい。では「領海」についてですが、干潮時の海岸線から12カイリ約22Kmの範囲をいいます。また「接続水域」とは領海からさらに12カイリ約22Km外側の範囲で「排他的経済水域」は基線から200カイリ約370Kmの海域になります。これらの言葉は、近年中国の海警船が尖閣諸島周辺でほぼ毎日接続水域で確認され、領海も侵入を繰り返しているとの報道で、聞いたことがあると思います。

M C : ○ そんなに島に近づいているんですね。驚きました。

A : ○ ちょっとここで日本の地理について質問です。日本の国土（領土）面積は世界60位です。ちなみに世界第1位はロシア、2位がカナダ、3位がアメリカそして4位が中国です。では、日本の権利が及ぶ海域つまり領海と排他的経済水域を合わせた面積は世界第何位でしょうか。

- M C : ○ そうですね。日本の周りはすべて海ですから相当な広さですよ。でも何位かといわれるとどうなのでしょう。意外と難しいですね。
- A : ○ 意外と知られていないと思うのですが、正解は世界第6位だそうです。そしてその面積は日本領土の約12倍になります。因みに世界第1位はアメリカ、2位がオーストラリアそして3位がインドネシアです。やはり日本は世界有数の海洋国家といわれる所以でもあり、その広大な地域の権利を守っていくことは大変ではあるもののすごく重要なことです。
- 次に領空についてですが、領空は領土と領海の上空ですが、それを守るために防空識別圏（ASIZ）が設定されています。この防空識別圏内に侵入し航空自衛隊が緊急発進つまりスクランブルにより領空内への侵犯を阻止する行動を対領空侵犯措置というのですが、近年の対領空侵犯措置の対象は中国軍機が全体の7割と1位になっています。次いでロシアです。
- M C : ○ よく報道でスクランブルの情報は聞きますね。中国はそんなに多いのですね。驚きました。
- A : ○ 本題に戻りますが、航空自衛隊の主要な事業について説明します。航空偵察隊（仮）を三沢基地に新編します。この部隊は今年3月1号機が到着した滑空型無人偵察機RQ4Bグローバルホークを3機保有して日本から離れた地域での情報収集を行う予定です。
- M C : ○ 確かこの無人偵察機は、鯨みたいな面白い形をした飛行機ですよ。そして、東日本大震災の際「ともだち作戦」として活動した米軍が福島原発の情報収集にも使用され話題になりました。
- A : ○ よく知ってらっしゃいますね。実は私は現物を見たことはなく映像だけなのであまりコメントできなくてすみません。
- 航空自衛隊の2つ目としてF35Aを新たに取得するとともに、STOVL（ストーブル）機能つまり短距離離陸・垂直着陸できるF35Bも取得し航空戦力の強化を行います。因みに海上自衛隊はこのF35B対応のため「いずも」型護衛艦の改修を行います。
- 次に海上自衛隊の主要な事業ですが、1つ目として滑空型UAV運用試験や艦載型のUAVの研究による省人化や水上無人機（USV）取得による対機雷戦の強化等により変化への適合を図ることとしています。2つ目に2020年に陸上配備型イージス・アショアに替えてイージス・システム搭載艦2隻を整備することを閣議決定されましたが、その新型レーダーの洋上型への改修と垂直発射装置を取得し護衛艦に搭載する事業を予定しています。3つ目に大綱で定めた護衛艦54隻潜水艦22隻体制を実現するための所要の艦艇を建造します。
- M C : ○ よくわかりました。今回は「本年度の防衛省の主要な事業、すなわち陸海空3自衛隊を含め、何に力を入れて取り組もうとしているかについて」いろいろなお話を伺ってきましたが、まとめて頂いてよろしいですか。
- A : ○ はい。今まさに日本を取り巻く国際情勢として「周辺各国が軍事力を強化

し、我が国周辺で軍事活動を急速に活性化させるなど、我が国を取り巻く安全保障環境がこれまでにない速度で厳しさと不確実性が増している。」との認識から「防衛力強化加速パッケージ」と位置づけ、令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算を一体として編成します。これにより宇宙・サイバー・電磁波といった新領域における能力などの多次元統合防衛力の構築と防衛分野での技術的優越の確保のため、ゲームチェンジャーとなる技術等の研究開発や防衛産業基盤の強化を行います。陸・海・空自衛隊の事業としても新領域における能力強化に合わせ従来の陸・海・空領域における能力の強化も図って行きます。

MC : ○ 本日は分かりやすくお話下さりありがとうございました。とっても興味深く聞かせて頂きました。これからも、A補佐官ご自身の体験も含めいろいろなお話を聞かせて下さい。今日は落下傘のお話をお聞きしましたが、レンジャー教育の話もとっても興味があります。これからもよろしくお願い致します。

A : ○ 分かりました。またの機会にお話しさせて頂けたらと思います。こちらこそどうもありがとうございました。

MC : ○ 終わりに自衛隊音楽隊の演奏による「宇宙戦艦ヤマト」を聴きながらお別れしたいと思います。リスナーの皆さん最後までお聴き下さりありがとうございました。次回は皆さんにとっても身近な防災についてのお話を放送する予定です。お楽しみに、それではさようなら。

～演奏～

(完)